

令和6年度投稿

俳句

(三月)

蒼天に 桜岳の嶺 (みね) 白の槍

(城山 川口正一)

春がすみ 彼方は見えず 煙るかな

(城山 周防 結人)

3月の 春風吹きし 城山よ

(城山 Haruka)

はじめての 桜島には 雪積もる

(仙巖園 まりん)

仙巖の 花に先がけ 煙る

(仙巖園 福豚)

春の風 降灰予報の 展望所

(城山 レモネード)

切子雛 桜島背に 煌めけり

(仙巖園 レモネード)

巣だけや ニヤンコ見えず 怪しけり

(仙巖園 AK)

ひとりたび さつま（妻）求める 思いきくらむ（咲く、桜島）

（仙巖園 加藤正太）

鹿児島や ああ鹿児島や 鹿児島や

（仙巖園 鹿児島、S）

50年 桜島見て 里帰り

（城山 寺口博明）

城山の 展望台にて 外套脱ぐ

（城山 まろもこ）

川柳

（三月）

日々変わる 桜岳の顔 古女房

（城山 川口正一）

桜島 雲に隠れて 尻隠さず

（城山 尼崎からこんにちは）

ここまでで よかではなくて これからだ

（城山 平井宏明）

若き日に 燃ゆる若葉 桜島

（城山 えんどうたいき3世）

島津家や ああ島津家や 島津家や

(仙巖園 鹿児島, s)

来る春に 想いを馳せて 桜咲く

(仙巖園 さとわたり)

短歌

(三月)

先人の思いを 胸に 見渡せば
メガネに写りし 軌跡かな

仙巖の 桜は未だ 咲かねども

煙る桜は 絶えず咲かりて

(仙巖園 福豚)

城山の 階段登り 見える先

島津を見下ろす 我が姿

(城山 軟弱な戦闘狂)

指宿の 風に吹かれて 横たわる

砂に守られ 波音を聴く

(維新 きままこ)

桜島 ああ 桜島 桜島

桜島こそ 桜島なり

(仙巖園 鹿児島, s)

立ち昇る けむり眺むる ひとり旅

さつま (薩摩・妻) 求める 思いさくらむ (咲く・桜島)

(仙巖園 加藤正太)

立ち昇る けむりをたどる ひとり旅

桜島 (咲く・思ひが咲く) から さつま (薩摩・妻) を望む

(仙巖園 加藤正太)

はるまえに おなごとあるく たてもものよ

えみもとまらぬ よきひかなあ

(仙巖園 南壮一郎)

桜島 高き峰山 絶景に

恋しかるかな 城山昇り

(城山 吟遊詩 J I N)